



Title	2016年度 意匠学会作品賞選考結果報告
Author(s)	塚田, 章
Citation	デザイン理論. 2017, 70, p. 5-6
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/65045">https://doi.org/10.18910/65045</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 2016年度 意匠学会作品賞選考結果報告

2016年度学会賞選考委員会

委員長 塚 田 章

### 受賞作品

多田羅景太氏

CRESCENT（クレッシェント）

### 受賞理由

多田羅景太氏は2015年のパネル発表では被災地の仮設住宅団地に向け、地元で伐採された間伐材を利用したウッドデッキに関わる研究「杉の間伐材を利用したテーブルとスツールのデザインと、制作ワークショップ」を発表し注目されたが、2016年のパネル発表では「CRESCENT（クレッシェント）」が発表された。共に木素材に拘った家具であり、複数配置され使用される状況を前提にデザインされている。「CRESCENT（クレッシェント）」は子供用家具である。この種の家具では通常堅牢性を考慮して桜などの堅い素材が用いられるが、本提案では柔らかい桐が使用されている。子供の使用を前提に軽量化及び素材の抗菌性に注目し桐を採用、三層に積層させ角や稜線を極力丸く仕上げる処理が採られた。配置する際の自由度高くする為の三日月型形状が特徴で、子供でも手軽に運べる様に把手も設けられ収納性も考慮されている。子供用家具に真摯に向き合った提案で従来に無い新しい提案であると各委員から高く



評価された。また前年の提案も含めた作品の完成度の高さも評価された。

### 選考経緯

選考は京都精華大学友愛館3階アゴラエクスカーショで、青木美保子委員、大森正夫委員、面矢慎介委員、杉本清委員、塚田章（座長）により行われた。以下は展示された作品である。

- ・川島 洋一氏 “福井県大学連携センター「Fスクエア（カフェ）」
- ・山本真紗子氏 “工芸を世界に発信する ― Google カルチュラル・インスティテュートによる実践を例に”
- ・上羽 陽子氏 “物質文化展示の新たな可能性について ― 国立民俗学博物館南アジア展示場を事例に”
- ・多田羅景太氏 “CRESCENT（クレッシェント）”
- ・金 宝恩氏 “シナプロ（知らぬ間に少しずつ）”
- ・大森 正夫氏 “地域文化とアート概念の拡張 ― 神戸ビエンナーレ、10年の歩み ―”

パネル発表は6作品であった。学会賞選考委員の作品が展示されており選考委員の作品は除外すべきではとの意見もあったが、先ずは純粹に展示されている作品で作品賞に相応しいと思う作品を各委員が選抜し、その結果を見て前述の問題に関わるものと成った時に審議を行うと言う方針で審査を行った。審査の結果、多田羅景太氏の“CRESCENT（クレッシェント）”が作品としての完成度が高く、開発のプロセスも含め手堅くデザインが為され、試作レベルに止まる事なく製品に向けた検証も重ねられている等作品賞として顕彰するに相応しい研究であると各委員から高く評価された。この結果は9月の第3回役員会で報告され承認された。

